



二ツ森貝塚

七戸町 約6,000年前～4,000年前
史跡指定／1998年



復元したたて穴住居



積み重なった貝塚の層



彫刻を施した鹿角製櫛

東北地方有数の大規模な貝塚

最大規模な貝塚を伴う集落遺跡です。

貝塚の層からは地球規模で起こった海進海退の様子を読み取ることができます。ヤマトシジミ・ハマグリなどの貝類、スズキ・マダイなどの魚骨、ハクチョウ・カモなどの鳥骨、シカ・イノシシなどの獣骨、骨角器などが出土したほか、丁寧に埋葬されたイヌの墓も見つかっています。

ここから出土した鹿角製櫛には見事な装飾が施されており、当時の人々の製作技術の高さを伺わせます。その他にもクジラの骨で作られた青竜刀形骨器が出土しており、いずれも県重宝に指定されています。



Q&A

Q なぜ、海から離れた場所に貝塚があるの？

A 縄文時代の早い時期は温暖化のために海水面は今よりも5mほど高く、この場所も当時は海岸線近くで、貝が容易に採ることができたと考えられています。

Q イヌのお墓はなぜ作られたの？

A 縄文人はイヌを大事にしていた。番犬だったり、獲物を見つけて追い込む役目をする狩猟のパートナーだったりしたのかもしれません。



埋葬されたイヌの骨

関連展示施設

七戸中央公民館



図書館や大ホールなどが設置された七戸町の生涯学習の拠点施設。2階のロビーに二ツ森貝塚の展示コーナーが設けられています。

ここに注目！

土器や石器、骨角器・貝殻などの遺物のほか、3Dプリンターで作成した鹿角製櫛など県重宝5点のレプリカを見ることができます。

開館日時 月～金／9時～21時(土・日／18時まで) 祝日・年末年始休館

入館料 無料

住所 七戸町森ノ上210

電話 0176-68-2920



【遺跡に関するお問い合わせ】
七戸町教育委員会世界遺産対策室
TEL 0176-58-5530